

第7回 陸上競技について

(1) 盲学校の大会の思い出

東海地区の盲学校では、夏に、隔年で、野球(グラウンドソフトボール)と陸上の大会を行っていました。

私は高校生の頃から陸上大会で短距離走に出るようになりました。主に 50m 走と 400m リレーです。

50m 走は、一人ずつ音源に向かってまっすぐに走り、タイムで競います。私は、まっすぐに走るのがなかなか難しかったです。コースアウトをしたことはないのですが、ずいぶんと曲がりくねって走っていました。高校3年生の時だったように思いますが、練習の時に6秒9を出したことがあります。これはうれしかったですね。大会では7秒0が最高でした。

400m リレーは、100m を4人で走ります。グラウンドに杭を打ち、これにワイヤーを付けます。ワイヤーの長さは杭を中心にして、ワイヤーの先端を持って1周すると100m になるように調節しています。杭と反対のワイヤーの先端に付けた持ち手を持って、ワイヤーを引っ張りながら円周を走るのですが、リレーの場合、スタートラインの10m 手前に停止線があり、ランナーがここに来たら、係の方がスタートの合図をするので、走るのは一人あたり、実質90m となります。アンカーだけは100m 走ります。名古屋盲学校では「円周リレー」、岡山盲学校では「円形リレー」という名前でした。100m の円周の記録を取ったことはあまりありませんが、専攻科の学生の際は14秒3でした。

(2) 全国身体障害者スポーツ大会

専攻科3年生の時の1977年10月に青森県で行われた身体障害者スポーツ大会(現在の障害者スポーツ大会の前身)に愛知県代表として参加させていただきました。出場種目は60m 走と立ち幅跳びです。私は、スタートがあまり得意でなかったので、毎朝学校のグラウンドでスタートから20m ほど走る練習をしていました。まっすぐに走ることは、本番まで不安がありました。現在の短距離走は、サポートのロープを持って伴走者と走りますが、当時は音源に向かって一人で走りました。しかも、トラックではなく、フィールドの芝生の上でした。スパイクも使えませんでした。入場行進でタータントラックを歩いた時、ここで走らせてもらえたら気持ちがいいだろうし、記録も出るだろうと思いました。

最初の種目は立ち幅跳び。東海地区の大会や名古屋市の大会では出場したことがなく、どうなることかと思っていましたが、2位になることができ、「何とかメダルを確保することができた」とほっとしました。翌日が私にとっての本命の60m 走でした。さすがに青森、朝の気温が10℃を切っている寒い日でしたが、結果は8秒3で1位!当時の大会記録が7秒8でしたので、記録としては平凡なものでしたが、50m に換算すると7秒を切ることになりますので、私としては満足できました。

行き帰りは、大会1日目の午後に愛知県庁で壮行式があり、夕方の新幹線で東京へ、「上野発の夜行列車♪」に乗って青森に向かいました。寝台車に乗るのは初めてでした。大会後は帰日も寝台車でした。上野駅に6時前に到着し、新幹線で名古屋に。8時半頃には名古屋駅に着いていました。

「練習は裏切らない」といいますが、毎朝スタートの練習を何度も繰り返した成果を出すことができました。課題を見つけ、自ら計画を立てて目標に向かって練習することの大切さを実感した体験でした。

筆者：志水克典(岡山ライトハウス点字出版所 所長、元岡山県立岡山盲学校教頭)